

国際交流

- 日時:2014.3.13
- 場所:明治大学、関西学院大学
- 対象:留学生(アフガニスタン、ミャンマー、中国、ベトナム、イラン)
- 講師:みらい育ティーチャー2名
- 絵本「じっとみて。」の制作

内容

現在の自分(過去をも含む)、自分が直面している壁や困難なこと、自分を勇気づけ励ましてくれるモノや人々の存在の発見、さらには将来の自分自身のビジョンやゴールまでを色鉛筆やカラーペン、クレヨンなどを使って楽しく描き、一冊の絵本を完成させます。

目標

- ・自分の絵を客観的に文字にすると共に、絵や文章を他者が見たときはどうかについてフィードバックすることで、内在する自己イメージ、概念、おそれ、恐怖、それらに立ち向かう(または立ち向かわない)姿勢、欲しい援助、すべてを乗り越えたときの最終ビジョンやゴールを意識化できる。
- ・他者からのフィードバックによるグループのボンディングを深めるとともに、自分には見えていなかった可能性や側面を発見できる。
- ・自分を見つめる、他者から見つめてもらう、自分から他者を見つめる三部構成により、仲間意識、自己肯定感、自己効力感や仲間意識を促進させる。

感想

- ・自分自身を見つめるいい機会となった。自分自身を励ますことができたと思う。次が楽しみだ。(ミャンマー、20歳男性)
- ・絵を通して、みんなの考え、価値観、思い、気持ち、夢などを知った気分でした。(ミャンマー、18歳女性)
- ・国籍も性別も関係なく皆がひとつのことに取り組んで、率直な意見を言い合う場が持ててすごく良かった。このクラスがひとつになれたような気がした。(ベトナム、24歳女性)
- ・あんな小さいママがたくさんママを育つぐらいの木になるのは当たり前といえば当たり前だけど、考えてみればすごいことだと思う。そして、みんなの創造力をみて面白かった。そして、あんなに絵が下手なのに、とてもやさしくて、たくさんほめてくれてうれしい。(イラン、25歳男性)
- ・自分が絵をかいたとき何もかんがえず自らありのままをかきました。他の人の絵などを見て、その人の心が見えるようになった。自らがどう成長しなければならないかかを感じるようになりました。(ミャンマー、38歳女性)
- ・みんなそれぞれ自分の目指しているものがあり、それに向かってがんばっている気持ちが伝わってきました。自分の考えていることや思っていることを再確認したり、自分の思いを新たに発見できてとてもよかったです。(ミャンマー、22歳女性)

作品紹介



●花(幸福の時)のシーン
平等と豊かさを象徴する太陽が黒い雲によって阻害されています。しかし、彼は高い山に登って弓をはなち、これと闘おうとしています。このいくつもの岩で形成された高い山は彼の困難を象徴していると思われませんが、頂上に立ち負けることなく、自分のみならず、他の者のためにも戦おうとする決意(弓)が読み取れます。(アフガニスタン男性)



●芽(社会に出ていく時)のシーン
黒い大きな壁で自分を隠し、自分の弱い部分を他者に見られたくない心境が表現されました。しかし、決して自分を否定しているのではなく、みずみずしいフレッシュな成長の黄緑色での芽で、自分の可能性を信じ、前向きな心境を表現しているように思われます。(ミャンマー男性)



●芽のシーン
ムスリムである彼にとって、ここに描かれた半月(平和のシンボル)は、彼の強い願望を象徴しているかのようです。半月の周りを覆う闇は、決して平和ではなかった彼の過去を彷彿とさせ、だからこそ自分自身が半月となって、道標になるのだという、強い決意が伺えます。持続発展する平和な世界に貢献したい思いが伝わってきます。



●太陽(自分にとっての栄養)のシーン
自分にとって不可欠なものは、人の愛情であり、これさえあれば、深くしっかりと大地に根を張ることができることを確認しました。彼女がこれまで受け取った多くの愛情への感謝が伝わってきます。同時に、今ここに存在する自分が強くたくましく成長していることへの確信も持つことができました。(ミャンマー女性)